



埼玉地本、32連隊に対し隊員自主募集教育を実施

埼玉地方協力本部さいたま地域事務所は12月18日（金）、第32普通科連隊（大宮）第3中隊会議室において隊員自主募集教育を実施した。

本教育は同中隊から依頼を受けて実現したもので、第3中隊長以下、90名が地本広報官から隊員自主募集について教育を受けた。

さいたま地域事務所からは、広報官平澤2陸曹が、厳しい募集現況について最新のデータをもとに説明し、隊員自主募集の重要性を深く認識してもらいたいという熱い想いを語った。

参加者からは、「少子高齢化に伴う募集現況が理解できた。」

「二人でも多くの募集情報を提供したい。」といった前向きなコメントが数多く寄せられた。

埼玉地本では今後も積極的に同様の取り組みを行い、厳しい募集現況について部隊からの理解を得るとともに、隊員の自主募集を促していきたくしている。



入隊予定者に対して部隊見学を実施

埼玉地方協力本部（本部長 山下1空佐）は、令和2年12月19日（土）、20日（日）及び25日（金）朝霞駐屯地において、第1後方支援連隊、第1施設大隊、第2高射特科群及び東部方面指揮所訓練支援隊の支援を受け、部隊見学を実施した。

本イベントは、進路に迷いのある入隊予定者及びその保護者に対し、陸上自衛隊への興味・関心を深め、入隊意欲の向上を図ることを目的に開催されたもので、3日間で75名が参加した。

装備品展示では、災害派遣で使用される施設器材、野外手術システム及び野外入浴セットⅡ型が展示され、参加者からは、「災害派遣に従事した隊員の説明を聞いて、やりがいのある仕事だと感じた。」との声が聞かれた。

訓練展示では、中SAM及びGICSSの訓練が展示され、初めて目にするものに参加者から訓練の内容や使用した装備品などについて矢継ぎ早に質問が飛んでいた。

イベントの最後は、迷彩服試着及びVR体験で締め括られた。迷彩服を親子揃って試着し、写真を撮る微笑ましい姿やVRゴーグルを装着して、リアルな映像に興奮する姿が見られ、会場は盛況となった。

参加者からは「ちょっとまだ恥ずかしいが、早くこの迷彩服が似合うようになりたいです。」という声が聞かれた。

会場にいた埼玉地本の担当者は、「彼女らが入隊する日が待ち遠しい限りです。」と語った。

埼玉地本は、今後とも自衛隊への関心を深めて入隊意欲を向上してもらえる施策を実施していくとしている。

